

地球物理学教室の近況

平成21年度地球物理学教室主任

(平成21年度地球惑星科学副専攻長)

町田 忍

人事関係では昨年の3月に東敏博助教が退職され、新学期を迎えた4月に、教室事務室に延原由紀主任が来られました。8月には、大気圏物理学講座に重尚一准教授が着任され、それと前後して、防災研の遠田晋次准教授・関口春子准教授が地球惑星科学専攻・地球物理学分野の協力講座構成員となりました。事務職員の金田久代さんには非常勤職員として3年前に、教室に来ていただきましたが、任期を迎えるこの3月に退職される予定です。

さて、今年度は、耐震改修が終わった理学部1号館への移転を完了しました。そして、地質学鉱物学教室と共に、一つの建物において、専攻としての新たなスタートを切りました。一方、これまでいた4号館においては北側3スパン(2部屋)を恒久的に使用できる運びとなりましたが、今後、そこを演習室・準備室として活用してゆく予定です。

学部関係では、オープン・ラボを7月3日に開き、12月中旬には、参加者(主として学部2回生)が各研究室を自由に訪れて質問することのできるオフィスアワーを設けて、地物教室の活動をより広く知ってもらうためのイベントを展開しました。大学院関係については、今年度も例年のように6月中旬に入試説明会を行い、本試験を8月4日と5日の両日にわたって実施しました。来年度から修士課程の学生定員は9名減って、33名となり、それによって、定員の充足率の問題が解消されることが期待されます。勿論、優れた人材を確保するための活動は、さらに強化継続してゆく必要があることは言うまでもありません。

2009年度からは、防災研究所の寶教授をリーダーとするG-COEプログラム「極端気象と適応社会の生存科学」が採択され、地球物理学教室からも、余田教授、里村教授らが事業推進担当者として参加し、今後5年間にわたって学際融合的な研究および教育活動が展開される予定です。また、教室の研究教育活動を横断的に強化することを目的とした国際高等研究所フェロー研究会が3回開催され、その第3回目が、本同窓会と共催という形で、本日、この会場で開かれました。また、同窓会との関連で述べますと、昨年9月に品川インターシティーに京大の東京オフィスが開設されました。本学の卒業生や関連教職員が利用できます。同窓会などでも有効に使用できますので、ここに紹介させていただく次第です。

以上が、教室の近況の報告です。